

第 6 期多摩区地域福祉計画 令和 3 年度評価 基本理念：多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区

取組状況（具体的な取組）	基本目標 1 区民一人ひとりが参加する地域づくり 重点的な取組 1 情報提供の拡充 【4 多摩区地域包括ケアシステムの普及啓発・地域情報の発信】：地域ケア推進課 ① 広報誌「地ケア TAMA」発行（10 月、2 月各 5,000 部）《新規》 ② 生田小学校 3 年生への ZOOM を活用した地ケアに関する授業実施（11/17、11/25） ③ 区役所アトリウムでの「地域包括ケアシステム」に関するパネル展示の実施（11 月、2 月） 【6 快適で暮らしやすい生活環境づくりのための情報発信】：衛生課 ① どうぶつ愛護フェア in たま区（10/4～10/8）でペットの写真を展覧を実施（応募数計 40 件） ② YouTube を利用したペット防災啓発動画の配信 【12 パサージュ・たま】：地域ケア推進課 ① 毎月 1 回多摩区役所 1 階アトリウムで開催（10 回開催） ② 多摩 SDC で作品の常設展示・販売を試行実施（12/1～3/31） ③ 広報誌を区内障害者施設、区内小学校（4～6 年生）、各町会に配布	基本目標 2 多世代交流でつながる地域づくり 重点的な取組 2 地域の支え合い活動の推進 【3 9 地域包括ケアシステムの推進】：地域ケア推進課 ① 登戸地区 ・コアミーティング（5/26 実施 13 名出席）：R3 年度取組内容についてグループワークで決定のぼとミーティング（11/29 開催 19 名出席）：会場と Zoom を併用し開催 コロナ禍における活動継続・再開についての講演会/各団体の活動内容や現状を共有するグループワークを実施 ② 中野島地区 ・コアミーティング（5/24 実施 11 名出席）：「協議会のテーマの明確化」に取り組むことが決定 ・中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会：11/1、15、12/13 実施 各回約 20 名出席 ③「コロナ禍でのつながりづくり～できない「から」でできる「へ」」講演会（7/18 開催 29 名参加） ④「シニア向け！初めてのかんたんスマホ・Zoom 講座」（10/20、27、28 実施 計 34 名参加）	基本目標 3 見守り・支え合いのネットワークづくり 重点的な取組 3 区民・団体・民間・行政の連携 【4 6 多摩区要保護児童対策地域協議会実務者会議】：地域支援課 ① 区代表者部会：全 2 回の連携青空 地域のネットワークにおける協働した支援のあり方実施 第 1 回：施設長向け講演会（8/3 実施 26 名参加） 第 2 回：実務者向け講演会＋グループワーク研修会（12/22 実施 34 名参加） ② 連携調整部会：児童相談所と区役所が参加し毎月 1 回実施。 うち年 3 回は多摩区内の全要対協ケースについて確認 【5 6 多摩区在宅療養推進協議会】：高齢・障害課 ① 区在宅療養推進協議会：医師会、病院、診療所、介護支援専門員連絡会、地域包括支援センター、介護サービス事業所等で構成。10 月、12 月参加。 ・在宅医療・介護連携を推進するための情報共有 ・令和 5 年度開催予定の市民シンポジウムの企画検討
	【区役所の評価】 4-①インタビューを中心にし、活動をイメージしやすい広報誌を作成することができた。私鉄各駅や郵便局に配架先を拡大し、啓発グッズをセットにして配架する工夫を行った。 4-②授業で得た学びを子供たちがポスターにまとめ、区役所アトリウムや生田出張所で掲示することで、子供たちをはじめ幅広い年齢層へ情報発信を行うことができた。 4-③多摩区内 5 地区の取組の紹介の他、生田小学校 3 年生が作成したポスターや健康づくりに関するパネル展示を行うことで、多分野にわたる地ケアの取組について来庁者に広報することができた。 6-①初めての試みとして市民からペットの写真を募集・展示し、来庁された応募者に後日加工した写真と景品を贈呈した。 6-②ペットの防災動画を作成し、広く市民が視聴できるよう啓発した。 12-①パサージュ・たまを開催することで、障害当事者が意欲と活力をもって参加できる場の提供を行うことができた。 12-②多摩 SDC での常設展示・販売を試行実施することで、来庁した区民に障害への理解と関心を深める機会を提供することができた。令和 4 年度も取組を継続実施する。 12-③パサージュ広報誌の配布先を新たに増やし、障害に関する活動の周知範囲を広げることができた。 【連携した団体・区民等の評価／意見】 4-①広報誌について「地域内のことが分かりやすく掲載されているため、町会回覧して欲しい」といった意見が寄せられた。 4-①広報誌を見た方から活動に参加したい旨の問い合わせが入るなどの反響が得られた。 4-②生田小での授業について、児童から、「地域でたくさんの活動が行われていることを初めて知った」「地域のことをもっと調べてみたい」などの感想をいただいた。 12-①パサージュ・たま参加団体から「コロナ禍で展示・販売をする機会がない中、毎月開催は有難い」、「利用者の活力にもつながっている」などの御意見をいただいた。 12-①パサージュ・たまの開催日や出展団体について区民から問い合わせがあった。 【総評】事業の達成度：3 目的をほぼ達成 コロナ禍で制約がある中、イベントや講演会は感染症対策を講じて実施した他、オンライン開催への振替、代替イベントの開催など、様々な工夫をしながら実施した。従来の紙媒体の配架や展示に加え、動画の配信等を取り入れることでより多くの区民が情報にアクセスしやすい環境を整えと同時に、紙媒体の広報物も分かりやすい誌面作りやこれまでにない配架先の拡大など、より目に留めてもらえる工夫を行った。また小学校での授業を行うことで、若年層への情報発信を行い、子どもから高齢者までの全世代で取り組む意識を育むための働きかけを行った。 こうした取組の結果、新規参加者の増加や区民からの問合せにつながった事例もあり、「情報提供の拡充」について「3 目的をほぼ達成」とした。 今後も更に区民が情報にアクセスしやすい環境づくりを推進すると同時に、より「見てみたい」「参加してみたい」と思っていたような手法を取り入れて取組を推進していく。	【区役所の評価】 39-①登戸地区では会場と Zoom を併用することでコロナ禍でも参加しやすい環境を整えることができた。 39-②中野島地区では、フォトボイス（参加者が撮影した写真を活用する、参加型の問題提起手法）や地図を活用することで活発な意見交換を促すことができた。 39-③コロナ禍で様々な集まり（カフェ・会議）などが中止になり、地域で集まることが難しいとの地域の声をいただいたことから、「コロナ禍でのつながりづくり講演会」を開催した。 39-④スマホなどを持っている方と持っていない方との情報格差という問題が浮き上がったことから、上記の講演を引き継ぐ形でスマホ・Zoom 講座を開催。募集定員以上の人からの申込があり、多くの反響があった。 【連携した団体・区民等の評価／意見】 39-①登戸地区 講演内容や参加者同士の情報交換について、「参考になった」「分りやすかった」との評価を得ることができたが、「情報交換の時間が短い」との意見もあったことから、令和 4 年度では情報交換をメインにした取組を実施する予定。 39-②中野島地区 参加者からは「情景や場所について、共有できてよかった。」との意見をいただいた。令和 4 年度は、参加者の投票で決定した優先的に取り組む課題について、検討する予定。 39-③「コロナ禍でのつながりづくり～できない「から」でできる「へ」」講演会の参加者アンケートでは「本講演会に参加したことで、新たなつながりづくりのきっかけになった」との評価をいただいた。 39-④「シニア向け！初めてのかんたんスマホ・Zoom 講座」参加者からは、「スマホを学びたいと考えていたが、きっかけがなかった」との意見をいただいた。 【総評】事業の達成度：3 目的をほぼ達成 多摩区内 5 地区の各地区での地域づくりと並行して、つながりづくりについての意識醸成を促す多摩区全体での取組を行った。登戸地区及び中野島地区では、それぞれの地区のネットワークの維持や目的の明確化に向けた取組を行うことで、参加団体同士の交流を促し、より一層団体同士の結びつきを深めることができた。また講演会や講座を通じて、集まることが難しい状況でもつながりづくりが可能である事例を紹介し、つながる手段を学ぶ場を併せて提供することで、従来とは異なるつながり方を推進することができた。 登戸地区や中野島地区の参加者からは、令和 3 年度の取組内容について評価する声が寄せられており、講演会、講座についても「つながりづくりのきっかけとなった」といった感想があったことから、「地域の支え合い活動の推進」について「3 目的をほぼ達成」とした。 今後は菅、稲田、生田地区についてもつながりづくりの取組を推進するとともに、より多くの区民につながりづくりの意識醸成を促す働きかけを進めていく。	【区役所の評価】 46-①区代表者部会では、コロナ禍ではあったが参加者からの要望の多かったグループワークを組み込んだ研修会を実施することができ、連携を強化することができた。 46-②連携調整部会では、ケース支援に滞りが無いよう確認、共有することができた。 56-①在宅療養推進協議会では、高齢者が自宅や住み慣れた環境で療養できる体制づくりのため、在宅医療・介護に係わる多職種連携の強化を進めることができた。 【連携した団体・区民等の評価／意見】 46 区代表者部会／在宅療養推進協議会 ・コロナ禍だったが開催していただけで良かった。 ・要対協を改めて理解できた。 ・グループワークを通して、関係機関に対する理解が深まった。 ・自身の仕事の振り返りになった。 ・このような研修をもっと実施してほしい。 56 在宅療養推進協議会 参加者から、関係機関のさらなる連携強化のためメーリングリストによる情報共有について提案があり、新年度（令和 4 年度）から運用開始。 【総評】事業の達成度：3 目的をほぼ達成 様々な立場の参加者の連携を深める取組が分野ごとに進められており、従来通りの連携が困難なケースでもオンラインの活用などで連携を維持することができた。 多摩区要保護児童対策地域協議会実務者会議では、グループワークを取り入れ、意見を交わすことで施設長レベルでの連携関係を構築することができており、在宅療養推進協議会では連携強化のためのメーリングリストが令和 4 年度から運用を開始しているなど、それぞれの分野での連携強化が進んでいる。その他の取組についても、参加者の声は概ね取組を評価する意見となっており、「区民・団体・民間・行政の連携」について「3 目的をほぼ達成」とした。 分野ごとの連携は進みつつあるものの、個人や家庭の生活課題は複雑化しており、制度や分野を超えた連携が求められている。様々な要素を含む複合的な課題に対して適切な支援を提供できるよう、より一層分野を横断した連携体制の構築が求められており、様々な個別案件への対応を積み上げながら枠組みづくりを進めていく。